

Catch the WAVES!

新潟県立佐渡中等教育学校
学校だより 令和4年度 12月号①
HP:<http://www.sado-ss.nein.ed.jp>

校長先生 全校集会 講話 令和4年12月23日

皆さん、こんにちは。今ほどの各種表彰紹介は皆さん立派で、うれしい限りです。今後の健闘を祈ります。今週前半の大雪により、停電被害や登校困難生徒の御家庭においては大変だったことと思います。心からお見舞い申し上げます。いろんなことがあった今年も暮れようとしています。新型コロナウイルス感染は第8波到来。第7波収束がコロナ収束かとも思いましたが、翻弄されながら今後もウィズコロナが続きそうです。本校においては夏休みから秋にかけて感染者が増加、4月に続き再び1学年、そして2学年でも臨時休業がありました。授業や国内語学研修等学校行事、部活動にも支障をきたし大変な思いをした生徒がいて、そのつらさに耐える仲間を思いやる姿もうかがえました。オンライン授業を通じて授業を受けていた皆さんは立派でしたし、配信準備・対応に追われた先生方には感謝しています。

世の中に目を向ければ、政治への不信感、円安、物価高による景気悪化等、暗いニュースが続く中、今年も進化を遂げたエンゼルス大谷翔平選手の二刀流の大活躍、日本でもスワローズ村上宗隆選手が史上最年少三冠王と左打者シーズン最多56号HR新記録でチームのリーグ優勝に貢献等、努力に裏打ちされた凄さに魅了されました。

そして何と言ってもサッカーワールドカップ日本代表の活躍は、まさに「ブラーヴォ!」であり、私たちを、そして日本を明るく元気にしてくれました。

優勝経験のあるドイツ戦での勝利は、29年前の「ドーハの悲劇」以来、Jリーグ発足を経て、積年に渡るサッカー関係者・サポーターの思い、挫折からの逆襲、勝ちへの執念を的確な分析と戦略で見事に「ドーハの歓喜」に繋げてくれました。

ドイツを上回る強豪国スペイン戦では、VARで話題になった「三苦の1mm」、三苦選手のゴールライン間際からクロスの切り返し後、幼なじみ田中選手の決勝点は努力の積み重ねが「奇跡を必然」だと証明しました。「一喜一憂しすぎず」最後まで諦めない姿勢は人生そのものとも言え、決勝トーナメントに進出しました。

ベスト16から「新しい景色」を、と臨んだクロアチア戦は延長戦、PK戦へともつれた死闘の120分間でしたが、「あと一步」の惜敗でした。落ち込む選手を労うドーハの悲劇を体験した森保監督の姿には胸が熱くなり、悔し涙を堪え4年後を見据え立ち上がろうとする選手たちは「新時代」を見せてくれました。

壮絶で想像を超えたドラマティックなアルゼンチン対フランスの決勝戦でしたが、華やかに見えるワールドカップの背景にあった人権侵害やジェンダー問題を選手が訴えたポーズ等で知った人もいたことでしょう。皆さんはどう考えますか。また、日本がここまで強くなった背景には実力を付け海外チームで活躍する選手が多くなったこと、海外生活で異文化を受け入れ物怖じせず語学力も堪能になったこと、代表メンバー落ちや怪我克服等、根底にハングリー精神があることも、強豪国と互角に戦えた要因であろうと考えます。高みをめざし、グローバルな環境を追い求めていく大切さを感じ、多くの学び、教訓を得たワールドカップでした。

さて、今日は2つ、皆さんに託したい、とても大事な話をしたいと思います。

1つめは、「佐渡中等の今、そして今後のあり方について」です。佐渡中等は今年度創立15周年を迎えました。この間9期生474人が卒業して島内外、県内外で活躍しています。県内、島内も少子化・人口減が加速し小・中学校での再編整備計画が進む中、本校は一昨年度一旦募集学級停止と報道されましたが撤回され当面存続、今年度・来年度の志願者状況により今後の存続を検討することになっています。佐渡中等は



今まさに過渡期であり、生まれ変わり進化する大事な時期にあります。私を含め教職員一同、そして全校生徒一人一人が、佐渡中等の特色化・魅力化のために日ごろの頑張りを発揮して発信していくことが大切であると考えます。

中等教育学校としての6年間一貫教育は他校にはない特色、魅力です。両津地区の進学校としてあり続けるためには、引き続き皆さんが自分の夢実現のために努力を継続すること、その実現に向けて先生方が支援し伴走していくことが不可欠です。また、先生方の生徒への親身できめ細やかな学習指導力、生徒指導力、そして面倒見の良さは本校の強み、特色、魅力であると、校長として自負しています。

佐渡中等は、特色ある多岐にわたる学校行事があり、決して勉強ばかりの学校ではないことは御存知のとおりです。しかし、将来の夢の実現のために「学習の大切さ」を強調していることは皆さんも理解できるはずですし、そう訴えてきました。

コロナ禍ではありますが、来年度こそ必ず海外研修が実現できるよう現在計画中です。文部科学省事業の「SaGaSu プロジェクト」による遠隔授業等、ICT活用授業の充実、各学年に応じた「総合学習」・「探究学習」の大切さを強調し地域協働、キャリア教育により学びを深め、学力向上に繋げていきます。

また、創立15周年記念事業として同窓会から「プログラミング講座」の寄付を受け、多くの生徒が受講しています。大人が思う以上に皆さんがプログラミングに興味関心を持っていることがよくわかりました。今後、文理問わず情報教育が不可欠であり、先を見据えてこのプログラミング講座も本校の特色としていきます。

さらに部活動では時間的制限がある中で陸上競技部・特設駅伝部をはじめ、バスケットボール部、卓球部、バレーボール部等、多くの活躍や成果を嬉しく感じます。

皆さんには今まで以上に佐渡中等生としての自覚と誇りを持って学校生活を送り、「母校」としてあり続けられるよう努力してほしい。そして、その日々の姿が今後本校をめざそうとする地元小学生の皆さんに伝わっていくものと考えます。

2つめは、「佐渡中等生として各学年この冬の時期、先を見通し俯瞰的にどう過ごすべきかについて」、話をしたいと思います。

なぜ、そのような話をするのかというと、例えば、マラソンならば、半分過ぎの後半が一番苦しくなってくるはずです。しかし、もう少し頑張ってゴールが近づいてくれば、疲れていてもまた元氣も氣力も回復してきます。

山登りで6、7合目、とても苦しくても8合目のあそこまで行けば、なだらかになると知っていれば、踏ん張ることができると思います。

ですから、中等6年間を俯瞰的に見て、ここは苦しい所なんだ、このまま歩みを進めればいいんだということを知って意識できている状況と、先が全くわからない、先が見通せない状況でいるのとでは、自分の気持ちの持ち方も支え方も、全く違ってくると思うからです。

これから学年ごとに話をしていきますが、5、4年生、そして前期生にとっては、すべて自分の将来に繋がっていくので、よく知っておいてください。

まず6年生。いよいよ6年間の集大成、ラストスパートです。6年生の学力は取り組んだ分だけ、最後の最後まで伸び続けます。なぜならば、現在1次特編でマークシート演習に取り組んでいますが、それによって基礎学力が固まるからです。その基礎ができ上がると、学んだ各セクションの関連がスムーズに結びつき、応用にも対応できるようになるからです。各セクションの基礎ができ上がれば、思考を繋ぐ練習、訓練がで



きるようになり、加速して学力が身に付いていきます。使い慣れた教材の反復練習、弱点分析と補強、模擬試験の解き直して時々記述問題も取り入れましょう。私立大学等受験の体験も国公立大受験への緊張感を体感でき、きっと2月下旬には相当な仕上がりとなっています。したがって、規則正しい生活、健康管理に注意して1次特編で補強を繰り返し、歩みを止めないで進んでほしいです。

進路が決まった6年生も含めて、数ヶ月後、春からのなりたい自分をめざし、ペースを崩さず取り組むべきことを粛々と積み重ねていくよう集中してください。

次に5年生。模擬試験も5教科対応となり、学習内容も質的にも量的にもとても負担が増加する時期になっていることと思います。たぶん、成績も自分の思うように上がることも少ないでしょう。そして、質・量ともに増加するため、今までのペースで行っていたことがだんだん消化できなくなり、厳しくなってくると思います。思うように結果が伴わないとくじけそうな気持ちになると思います。

しかし、全国の多くの高校2年生及び中等5年生が今そのような状況であり、苦しい時期であることを自覚してもらいたい。決して自分だけができないわけではありません。自分だけがダメなわけではありません。自分だけが苦しいわけではありません。成績が伸びなくても維持できているだけでも本当は伸びていると考えてもらいたい。目の色を変え歩み始めた人も出てきたと聞いています。スマホを教科書、参考書に持ち替え、つまらないことに脇目も振らず最高学年0学期として、今日から心機一転、スタートを切りましょう。今日からです。期待しています。

そして4年生。中等6年間の折り返しを過ぎ、後期生として自覚は身に付いたことでしょう。4年生のこの時期は、もう前期生の貯金等尽きてしまい、少なくとも3ヶ月前の夏の終わりから秋にかけての積み重ねが結果として影響していると思います。3ヶ月前きちんとした取組ができていれば、仮に成績が下がっていても気にする必要はありません。別の機会に成績は上昇するでしょう。逆に3ヶ月前の取組がしっかりできていなければ、今後数ヶ月かけて修正し巻き返しが必要です。

続いて前期生3年生。夏休みの集中学習時、夏休み明けにも話しましたが、後期生への自覚は高まりましたね？既に後期課程の先取り学習も始まっていると思います。周囲の中3生は高校受験を目前に控えています。中等の良さ、強みを活かし、前期課程を総括しながら、後期生0学期としてしっかりと学んでいきましょう。

次に2年生。昨年度の幼さから心身ともに大きく成長し、落ち着きも見えてきたと感心しています。日々の授業を大切にしながら、全国学力調査の観点からも成果が出ており、基礎学力の定着から応用力への発展を楽しみにしています。また部活動においては先輩となり、後輩への思いやり、適切な指導も期待しています。いよいよ前期生最高学年としての自覚を高めていきましょう。

最後に1年生。入学後1年が経とうとしています。まずは学級の仲間との人間関係づくりからお互いを認め合い、良いところを見出せる時期だと思います。学習面においてもそれぞれが頑張り、成果が上がっていると聞いています。長い6年間の大事な一年目。学習習慣をしっかりと確立させることと、継続することが大切です。将来の目標は明確になりましたか。新入生を迎える心の準備をお願いします。

以上、全校生徒 214 人へ託したメッセージです。教科書を基本とした、先生方による日々の授業の完全理解が学力向上、夢の実現への一歩です。各自が自分事と捉えて考え行動に移せば、佐渡中等の更なる発展につながるものと信じています。

最後に、6年生は年明け1月 14 日、15 日の大学入学共通テストまで3週間となります。自分を信じて、今日の自分より明日の自分が成長できるよう、カウントダウンの一日一日、自己ベスト更新を続けてほしいと願っています。気候的に、気温の低い、寒い時期、インフルエンザやコロナが懸念される時期に、勝負の大学入学共通テストがあるのです。この時期どのような生活をすべきなのかということを考えれば、特にこの時期は健康管理に留意し免疫力を高め、自己管理しながら生活をする訓練を積んでおく、練習を積んでおく必要があると思います。

これからの時期、どのような意識を持って、行動を仕掛けていくのかで、自身の状況は大きく変化していくと思います。5年生以下は、先輩がこの時期、どのように生活をしているのか、姿をよく見ておいて学んでほしいと思います。

私たちは何度も高校あるいは中学校の3年間というものを見ています。経験を踏まえて、いつの時期、どんなことが重要なのかということもよく知っています。

もちろん、それを教えてもらったからと言って、皆さんの状況がすぐに変わるわけではないでしょうが、少なくとも皆さんの気持ちの持ち方、取り組み方は変えることができると思います。どうか先生方を信じてついてきてください。

コロナ禍もいくつかの波を立てながら、少しずつ収まっていこうとしています。皆さんの人生においても、苦しいことだけが続くわけではありません。明るい未来が待っています。前向きな一生懸命な生徒に、私は、声援を送り続けます。

もしも、抱えている苦しい気持ちがあるならば、きちんと先生など大人に話をしてください。気持ちが軽くなり、解決の糸口も見つかるはずです。

今日は多くの教訓を得たワールドカップ日本代表の勇姿を踏まえ、①創立 15 周年を迎えた佐渡中等の今と今後のあり方、②入試直前6年生の心構えと先輩を模範に各学年で先を見通し俯瞰的にどう過ごすか、について話をしました。

この冬休み、事故やけがないよう気を付け、輝かしい新年が迎えられるよう祈っています。1月10日、冬休み明け全校集会でまた元気に会いましょう。

